

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0171200207		
法人名	株式会社 恵み野介護サービス		
事業所名	株式会社 恵み野介護サービス グループホームだんらんこがね		
所在地	恵庭市黄金南4丁目13番地1		
自己評価作成日	令和6年11月20日	評価結果市町村受理日	令和6年12月27日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kan=true&JigyosyoCd=0171200207-00&ServiceCd=320&Type=search
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	令和6年12月12日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

JR恵庭駅から徒歩10分程度の住宅街にあります。施設の隣には 恵庭市の公共施設「ふれあいセンター」があり 時折 開催されるイベントには入居者様と一緒に参加させて頂き 2ヶ月に1度の運営推進会議の会場として使用させて頂いております。近くには中学校・高校・大学があり 小学校のバス停も近いことから 登下校の際には子供達の賑やかな声を聞きながら 時には手を振りあったりする場面も見られます。施設内は吹き抜け部分の窓から光が差し込み 明るく広々とした住居環境にあります。季節に合った展示物に力を入れ 入居者様とスタッフで作成した作品を壁面に貼るなどして工夫しております。医療面では週1回 恵み野訪問看護ステーション「はあと」さんに健康管理を行っていただき 24時間いつでも連絡を取れるシステムになっており かかりつけの医療機関と連携しながら安心して生活できるよう支援しています。ご家族との関係ではコロナウイルス感染防止のため面会制限は行っていますがパーティションを活用しながら 大切な ご家族と面会できるよう努めております。また 月に1度は必ず行事を取り入れ その様子や季節のイベント・買い物ツアー・散歩など 日常の様子を「だんらんこがね新聞」として1ヶ月に1回発行し ご家族に配布しております。家庭的な雰囲気をご大切にしながら「ゆっくり」「いっしょに」「たのしく」過ごせるよう努めております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「グループホームだんらんこがね」は、JR恵庭駅から徒歩圏内の静かな住宅地に立地している平屋建て1ユニットの事業所である。近隣には、地域の交流施設「ふれあいセンター」やコミュニティバスの停留所、公園やスーパーマーケットなどもあり生活の利便性が高い。建物内は天窓から明るい光が注ぐ開放感のある造りで、カレンダーや干支の飾り物、季節の装飾など利用者と一緒に制作した手作りの物が賑やかに飾られており、家庭的な温もりが感じられる。家族とのコミュニケーションを大切にしており、面会時や電話でのやり取りを詳細に記録して職員間で情報を共有している。家族の悩みや相談にも真摯に向き合い、適切な対応をすることで信頼関係も深められている。ケアマネジメントの面は、計画作成担当者を中心に全職員で利用者の思いや意向の把握に努め、詳細なセンター方式シートを作成している。家族への情報提供として毎月発行の「だんらんこがね新聞」や運営推進会議の議事録と行政からの情報、成年後見人制度など多くの資料を送っている。毎月の行事開催や日々のレクリエーション活動、利用者の希望にそった外出や外食支援などが充実している。利用者一人ひとりの思いに寄り添い、「ゆっくり」「いっしょに」「たのしく」という理念にそって、職員と利用者が笑顔で楽しい日々が過ごせるように取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいの				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいの				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない			○	4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)		1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが			○	3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)		1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
		○	3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが			○	2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所理念・スタッフ理念は、共にステーション・玄関に掲示し また記載したカードをスタッフ全員が携帯している。 個々で確認し共有を図っている。	法人共通理念とスタッフ理念の中に、地域密着型サービスを意識した文言が含まれている。玄関や事務所などの共用空間に掲示し、各職員はカードを携帯している。理念を職員採用時に説明し、会議や業務の中で振り返りながら実践している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入し回覧板を通して地域の情報を得ている。夏祭りを開催し交流を深める予定でしたが施設内でコロナ感染者が出てしまい行うことができませんでした。時折 ふれあいセンターの催し物に参加して地域の方々との交流に努めている。	地域の交流施設「ふれあいセンター」で開催されたカラオケ大会に参加したり、キッチンカーや手作り品の販売会などに出かけている。散歩で近隣住民と挨拶したり、実習生と交流する機会も多くある。町内会長に除雪を手伝ってもらうこともある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方々には、いつでも気軽に、相談に来られるよう心掛けている。電話などがあった場合には丁寧な説明を行っている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1度、運営推進会議を行い日常の様子や行事などの報告をし質向上のため意見交換を行っている。スタッフでテーマを考え課題について話し合い資料を作成し、ご家族・参加者に配布している。意見・要望は素早く対応している。	市や地域包括支援センター、町内会長、家族の参加を得て活動報告やヒヤリハット、行政から情報提供を受けて話し合っている。全家族に会議案内と資料を添えた議事録を送っている。一方、テーマの設定は少なく事業所の報告が中心である。	テーマを設けた会議回数を現在より増やすような工夫を期待したい。また、会議案内にテーマを記載し、参加できない家族の意見や質問なども会議に反映させるよう期待したい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市の担当者にも会議に参加していただき必要に応じて密に連絡を取っている。わからないことがあれば すぐに連絡を取り、電話やメールで情報交換を行い協力関係を築いている。	市役所にマイナンバーカードに関して確認したり、付近の道路の縁石破損や植木の伐採について相談したこともある。生活保護課の職員とも定期的に情報交換しており、何かあればすぐに相談できる関係を築いている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないケアをスタッフ全員で心掛け、言葉の掛け方にも気を付けている。やむを得ず、センサーの設置や布団に鈴を付ける場合には、ご家族からの承諾書を頂いている。日中は施錠せず出入り出来るようにしているが 夜間のみ、防犯防止のため玄関の施錠を行っている。	「禁止の対象となる具体的な行為」を記載したマニュアルを整備し、外部研修を基に勉強会を行っているが、議事録が見やすく整備されているとはいえない。身体拘束委員会は法人合同で開催し、議事録で職員に周知している。玄関の鍵は夜間のみ施錠し、センサーで出入りを把握しながら柔軟に対応している。	身体拘束に関する勉強会の年2回以上の開催と、実施記録および資料を分かりやすく整備することを期待したい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	拘束委員を設け 研修がある時には参加をし 報告を行っている。 月に1度のスタッフ会議では虐待について話し合いをし 防止に努めている。		

グループホームだんらんこがね

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度の研修に参加し勉強する機会を得ている。研修の報告はスタッフ間で共有し また ホーム内にはガイドブックや資料を観覧出来るようにして 理解できるように努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約前には感染対策を行い、自宅や入院先を訪問。利用者・ご家族と情報交換・意向などを話し合い 不安や疑問点について 十分な説明を行い理解 納得された上で 契約を行うようにしている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者とのコミュニケーションを大切にし ご家族との面会では制限を設けている中で 少しでも長く会ってもらえるように 速やかに意見・要望を聞き記録に残している。玄関には意見箱の設置も行っている。	面会時や介護計画の意向確認時などに利用者の様子を伝えて意見や要望を聞き取り、「面談及び説明の経過記録」に家族とのやり取りを詳細に記録している。「だんらんこがね新聞」を毎月発行し、多くの写真で利用者の様子を伝えている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1度、会議を行いスタッフ間で意見交換をし 意見・提案を聞く機会を設けている。また連絡ノートを作り個別に意見交換をできるようにしている。管理者は必要に応じて個人面談を実施し話を聞く機会を設けている。	会議や業務の中で意見や要望を聞き取り、職員の意見を基に話し合って対応を決めている。行事係の職員が、各職員の役割分担なども考えている。管理者は普段から職員の話に耳を傾け、運営やケアに反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者は各スタッフに休日希望を聞き、可能な限り希望に沿ったシフトの作成を行っている。またスタッフの努力・実績・勤務状況を把握し職場環境、条件の設備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	資格取得に向け 研修を提案し 有休やシフトの調整を行いながら 研修を受ける機会を確保し 働きながらトレーニングしていくことを勧めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	5類以降も恵庭市GHネットワークの会議は開催されていませんが リモート・電話・FAX・メールなどで情報交換を行っている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居開始時には、利用者と多く会話し安心感を持っていただき 本人から情報を得よう務めている。アセスメントに基づき生活環境が変わらないように配慮している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用者に どのように生活してほしいか等 ご家族の思いや要望などを しっかりと聞き 安心していただくことで 良い信頼関係を築けるよう丁寧に対応している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	情報交換を密にして、出てきた情報が その時に必要なものかを 十分に話し合い 注意深く 見極めた上で、ケアプランに反映し実践するように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	テレビやDVDを楽しめる場所を設け 皆で視聴できるようにし テレビやDVDを見ながら楽しく会話できるように努めている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナ感染拡大防止のため、短時間の面会であることは ご家族からも了承を得て継続している。なるべく本人と家族が多く会話できるよう 面会前に生活状況などは説明し対応している。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	暖かい時期には感染対策を行い 短時間ではあるが 施設周辺の散歩や買物支援を行っていた。2か月に1度 理容を行っていて 待ち遠しく楽しみにしている利用者もいる。	知人や友人が面会に来る機会はほとんど無くなったが、年賀状が届く利用者もいる。職員は、家族への年賀状作成を支援している。利用者は職員と一緒に馴染みの場所や買い物に出かけている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者それぞれの個性を尊重し、座る位置などにも気を配っている。行事やゲーム大会などを通して 良好な関係を築けるよう スタッフが間に入り支援を行っている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去された後も同じ時間を共有した利用者には思い入れがあるため、ご家族に対して困り事などがあれば可能な限り協力致しますと伝えている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	何気ない日常生活の会話に耳を傾け希望や意向を把握している。困難な場合も同様 介助されている時に見せる表情などを観察するほか スタッフからの情報を得ている。	会話や仕草などから思いや意向を把握している。センター方式シートを作成し、趣味や嗜好など暮らしの情報を詳細に記録している。計画作成担当者は、職員と利用者の会話からも情報を得ている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時は家族との面談やセンター方式シートの記入を依頼するほか サービスを利用していた場合は前任者からの情報を収集し 把握するよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	その人らしい生活が個々に送れるように心身面の観察を行い できることは少しでも長くできるようにできなければ どのような対応が必要か常に現状の把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	スタッフからの情報を得るほか 毎日の生活を観察している。評価表は担当スタッフが それぞれ作成するが 評価表作成の前後で話し合いを行うほか 家族の面談時などには 本人の様子を伝え 家族の意見を反映させ介護計画を作成している。	利用者担当職員の評価を基に計画作成担当者を中心にモニタリングを行い、3か月ごとに介護計画を作成している。日々の記録は介護内容項目にそって変化や課題を記録し、介護計画の見直しに活かしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	計画書に沿ってナンバリングしながら 日々の記録を行っている。個々の様子も記入し より生活の質を高めるべく個人連絡票にも記入し スタッフ間での情報共有を図り実践している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家庭的な雰囲気作り 季節的な行事にあった食事や おやつを提供して長く過ごしてきた生活を思い起こせるようにしている。作品づくりにも積極的に行うほか それぞれの希望に合わせたサービスを提供している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	新型コロナが5類になってからは 感染対策に配慮しながら近くのふれあいセンターで行われる催しに参加したり 買い物ツアーや 近くを散歩して移り行く景色などを眺め 楽しめるようにしている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医との連絡をこまめに取り合って 必要に応じて受診を行うほか 往診や訪問看護も利用している。適切な医療を受けることができるように務め 診察結果は必ず 家族に報告している。	皮膚科と歯科は随時訪問診療を受けることができる。内科等の通院は主に事業所で支援し、利用者の体調を詳しく医師に伝えている。受診記録は個別に医師とのやり取りを詳しく記入している。	

グループホームだんらんこがね

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護を週に1回利用し 日常の様子や情報を報告 それに対して施設側の対応、受診結果などを報告し適切な指示を仰いでいる。また24時間いつでも連絡できる体制を整え支援を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時には 本人が安心して治療が受けられるよう医療機関（ソーシャルワーカーなど）とは密に連絡を取っている。また早期退院に向けて情報交換を行ったり、気軽に相談が出来るような関係づくりを心掛けている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化・終末期に向けたあり方について 早期に家族と話し合い、施設で出来る支援、出来ない医療行為などの説明を行っている。往診体制を整え 主治医と相談し医療機関と連携。方針の共有を図っている。	利用開始時に「医療連携・重度化に関する指針」にそって事業所の方針を説明して看取りが可能であること、医療行為が生じる場合は難しい旨も説明している。看取りはその都度適切な支援方法を話し合い、昨年度も1名の看取りを行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	コロナ禍においては中止になることが多かったが現在は講習などには積極的に参加している。学んだ内容を 定期的に行う会議で共有し実践の向上に努めている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	コロナが5類に変わった現在も感染防止のため、地域との関わりは持てなかったが 災害自己訓練を行うことを説明し、日中と夜間を想定した避難訓練を年に2回実施し、利用者が避難できる方法をスタッフ全員が身につけられるよう努めている。	年2回の昼夜の火災とJアラート想定で避難訓練を実施し、うち1回は消防署の協力を得ている。今年は感染症の流行で地域住民は参加していないが、協力体制を確認している。災害時のケア場面別の対応までは話し合っていない。	災害時のケア場面別の個別対応について話し合い、定期的に対応を再確認するよう期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格を尊重し、本人のプライバシー誇りを傷つけない声掛けや対応を行うよう努めている。	呼びかけは「さん」づけを基本とし、状況に応じて親しみを込めた呼びかけを行うこともある。外部の接遇研修に新人職員が参加している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	一人ひとりの個性を大切にし それぞれの思いや希望を傾聴し自己決定できる環境作りを行っている。またスタッフ側が主導にならないような声かけも行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	屋内では好きなTVやDVDを観たり、かるたトランプ等のゲームを行っている。体調に合わせて近場を散歩するなど、感染対策を十分に行いスーパーに買物に出かけ その人らしい1日を過ごせるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人らしい髪形や服装などの身だしなみを職員が常に気に掛けるようにしたり、2ヶ月に1度訪問理容を利用し支援している。		

グループホームだんらんこがね

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	本人の好みを尊重し苦手なものは個別にメニュー変更を行っている。誕生会では本人が好むメニューを提供し喜ばれている。食器洗い・食器拭きなどそれぞれ出来ることを把握し お手伝いをして頂いている。	食材会社から献立と食材が提供され、時には変化のある献立を選ぶこともできる。食器拭きを手伝ったり、一緒にお菓子を作る利用者もいる。誕生会で個別に外食に出かけることもある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	本人の体調、食事習慣、摂取量を把握し、栄養や水分が確保できるよう、その人の状態に合わせた支援を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアの声掛けを行い 一人ひとりの口腔状態にあったケアを行っている。義歯使用者は就寝時に義歯を預かり洗浄剤にて清潔にしている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表を使用し排泄パターンを把握している。排泄間隔があいている時や落ち着かずソワソワしている時には、声掛けを行いトイレ誘導し、出来る限りトイレで排泄が出来るように支援を行っている。	全員の排泄状況を記録し、パターンを把握している。誘導時は羞恥心に配慮し、小声で誘導している。個々の状態に応じた排泄用品を使用している。ほとんどの方が夜間もトイレで排泄ができています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個別に合った食事の工夫、水分補給などを行っている。ホーム内をスタッフと一緒に歩くなど運動の声かけも行っている。スムーズに排便が行われていない時には便秘薬の調整を行い、便秘予防に取り組んでいる。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴前には体温・血圧を測定し体調確認を行っている。一人ひとりの気分に配慮しながら声掛けを行い 週2回は入浴できる体制を整え支援を行っている。	日曜日以外の午前～午後2時位の時間帯で、各利用者が週2回入浴している。入浴を拒む場合は日にちをずらしている。希望に応じて同性介助とし、入浴剤を使用したり歌を歌うなど、楽しく入浴できるようにしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	傾眠されている方には 居室でゆっくり休むよう声かけを行い 休息できる環境を整え支援している。就寝時には、ゆっくり眠れるように適度な室温・適切な寝具・ゆとりのある寝巻きで対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	いつでも薬の内容が確認が出来るよう薬表は個人ファイルに保管している。服薬時には声出し・目視で確認し見守りを行っている。症状に変化があった場合は随時医療機関に確認・相談を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個人の気分転換が図れるよう散歩やお手伝いDVD鑑賞 カードゲームなど興味のあるものを取り入れ支援を行っている。月に1回は必ず利用者が楽しめるような企画(行事)を取り入れ楽しんでもらっている。		

グループホームだんらんこがね

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者の状態・体調・天候などに考慮しつつ 本人の希望を取り入れ 安全に配慮しながら近隣への散歩を行っている。また感染対策を十分に行い 好みの衣類・好きな食べ物などを買いに行けるよう支援を行っている。	日常的に周辺を散歩したり、近くの薬局や地域の交流施設「ふれあいセンター」に出かけている。道の駅にソフトクリームを食べに行ったり、買い物にも行っている。月1回は通院での外出もある。年間行事では近くの公園で花見を行っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭の自己管理は難しいが 利用者の希望を取り入れ必要なものを代行し購入したり 一緒に買物に出かけ 見守りを行いつつ 個々の能力に合わせて支払いなどは本人が出来るよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望に応じ、いつでも電話などのやり取りができるように支援している。また家族からの手紙など送られてきたものは居室に貼ったり置いたりして、いつでも見られるように支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎日の清掃はもちろん、消毒・換気を常に意識し、明るく清潔感を感じられるよう心掛けている。共有空間には季節を感じられる装飾にも力を入れ 行事や普段の生活を実感できるよう写真を展示している。季節ごとの作品づくりは感染対策を十分に行い スタッフと一緒にやっている。	共用空間は窓が多く、中心部の吹き抜け上部から光が差し込んでいる。手作りの大きなカレンダーやクリスマスツリーなど季節の装飾、利用者が毛糸で作った干支の飾りなどがあり賑やかである。利用者は広い共用空間でゆったりと楽しく過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	広い空間を活用し みんなで楽しめる空間だけでなく その時の状況や本人の気持ちに配慮して過ごせる居場所を工夫している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家具や装飾品は家族と相談し使い慣れたものを持ち込み、TV・冷蔵庫なども自由に置いている。写真・身内からの贈り物・スタッフからの色紙などを壁面に飾り心地よく生活できるよう工夫している。	居室には広めのクローゼットがあり、利用者がタンスや戸棚、テレビなど馴染みのものを持ち込んでいる。壁には家族や親戚の写真、歌手のポスター、カレンダーや時計、誕生日の寄せ書きなどを自由に飾り、その人らしい部屋となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	リビング・浴室・トイレなど動線を意識した手すりを設置している。利用者の歩行レベルに合わせ車椅子や歩行器などを使用し、転倒リスクが高い利用者居室には家族と相談・同意の上センサーを設置。安全に生活できるよう支援している。		

目標達成計画

事業所名 グループホームだんらんこがね

作成日：令和 6年 12月 26日

市町村受理日：令和 6年 12月 27日

【目標達成計画】

優先 順位	項目 番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に 要する期間
1	4	運営推進会議の際ご家族様の出席を多くする為にはどのようなことをして少しでも参加できるか。	ご家族様が興味を持てるようなテーマを考え会議案内を作成し 参加できないご家族様にも率直な意見をもらえるよう心掛ける。	テーマを記載した会議案内を作成し 今まで参加できていなかったご家族様にも意見や要望などを 出席確認の際に聞き取り サービス向上につなげていく。	1年間
2	6	・身体拘束委員会の際に身体拘束と虐待の研修資料が一緒になっている。 ・外部研修資料などもわかりやすくしていない。	・身体拘束委員会の開催時には身体拘束と虐待を分け 整理し 具体的に取り組む。 ・外部研修は率先して参加し報告する。	・身体拘束委員会の報告や資料など全職員で情報共有し 内容は身体拘束と虐待を分けて見やすくファイルをする。 ・外部研修後は研修開催日や内容をわかりやすく整理し必要な資料などを添付する。	1年間
3	35	災害対策として避難訓練は行っているも災害時(地震など)の対応の話し合いを定期的に行っていない。	地震対策に向けてケア別の対応を職員間で話し合いマニュアルを作成する。	一人一人の身体状況などを踏まえ職員間で色々な場面を想定し避難方法などを訓練しておく。移動困難な利用者の誘導は明確にしておく。	1年間
4					
5					

注1)項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2)項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。